

# 令和7年度沖縄県医師会医療 IT セミナー



理事 富名腰 亮



## 令和7年度沖縄県医師会医療 IT セミナー

日 時：令和7年12月10日（水）

①展示：13：00～21：00

②講演：19：00～20：00

場 所：沖縄県医師会館3階ホール

テーマ：医療 DX の概要と医療現場への影響

司会：沖縄県医師会理事 富名腰 亮

### 1. 開会

### 2. 厚生労働省が目指す DX ～現状と未来

日本医師会 ORCA 管理機構 副社長 上野 智明 様

### 3. 質疑応答（10分）

### 4. 閉会

○医療 DX に関連するサービスを紹介する展示ブースについて

日医標準レセプト（ORCA）や標準電子カルテ（厚生労働省・デジタル庁）の最新情報。ORCA に対応する電子カルテ等の周辺機器、電子処方箋、院内セキュリティサービス、BCP 策定、キャッシュレスサービス、勤怠管理システム、自動精算機、その他医療 DX 関連機器予定。

※出展予定企業・展示製品の詳細は（別紙）をご覧ください。  
※「DX 認定」企業による DX 化に関する相談窓口も併設予定です。

～お気軽にご相談下さいませ～

令和7年12月10日（水）、沖縄県医師会館において「令和7年度沖縄県医師会医療 IT セミナー」を開催いたしました。本セミナーは、医療現場における実践的な活用について考える機会として企画されたものです。

当日は、医師をはじめとする多職種の医療従事者が多数参加され、医療 DX に対する関心の高さと、現場での課題意識の広がりを強く感じました。

本セミナーの講演では、日本医師会 ORCA 管理機構 副社長の上野智明様より、「厚生労働省が目指す DX ～現状と未来～」をテーマにご講演いただきました。

講演では、標準型電子カルテや電子処方箋、医療情報の標準化といった国の施策について、制度設計の背景や現在の進捗状況、今後の方向性が丁寧に説明されました。医療 DX は、単に紙を電子化することや業務を効率化することに

とどまらず、医療の質と安全性を確保しつつ、限られた人的・物的資源を有効に活用するための基盤であることが強調され、非常に示唆に富む内容であったと感じております。

特に印象的であったのは、医療 DX を進めるうえで「現場に無理を強いることなく、段階的に導入していくことの重要性」や、「標準化を通じて医療機関間の連携を円滑にする必要性」が繰り返し述べられていた点です。沖縄県においては、地理的条件や医療資源の偏在といった課題を抱えていることから、こうした DX の取り組みは、地域医療の持続性を高めるうえで極めて重要であると改めて認識しました。

また、講演に先立ち開催された展示ブースでは、日医標準レセプトソフト（ORCA）を中心とした電子カルテ関連システムをはじめ、電子処方箋対応、院内業務の効率化を支援する各種機器、セキュリティ対策や BCP 対応サービスなど、多岐にわたる医療 DX 関連の製品・サービスが紹介されました。各ブースでは、医療機

関の規模や診療形態に応じた柔軟な導入事例が提示されており、来場者が自院の状況に照らし合わせながら具体的なイメージを持って説明を受けている様子が印象的でした。

医療 DX の推進にあたっては、システム導入そのものよりも、実際にそれを使いこなす医療従事者の理解と納得が不可欠です。本セミナーは、国の方針と現場の実情を結びつけて考える貴重な機会となり、参加者にとって今後の取り組みを検討するうえで大きな参考になったものと考えております。

沖縄県医師会としても、今後ますます進展する医療 DX の流れを踏まえ、会員の皆様が安心して新たな仕組みに取り組めるよう、引き続き情報提供や支援体制の充実を図っていく必要があります。本セミナーで得られた知見が、各医療現場における DX 推進の一助となり、ひいては県民に対するより質の高い医療提供につながることを期待し、印象記といたします。



展示ブースの様子